

生産者の様々な課題解決に取り組んでいます

J Aふかやの生産者支援

生産者の様々な課題に対応すべく、J Aふかやは生産者に寄り添って解決策をご提案しております。

生産者支援



課題

みかん生産者の高齢化に伴い、夏場の猛暑の中での農薬散布に多大な時間と労力がかかる

盆地特有の気温の逆転現象を活かしたみかん栽培

埼玉県寄居町の風布・小林地区のみかん栽培の歴史は天正年間（1573～1592年）までさかのぼり、小田原から柑子みかん（ふくれみかん）を移植したのが始まりといわれ、400年以上の歴史があります。四方を山々に囲まれ、低地よりも高地の方が暖かいという盆地特有の逆転現象を生かし栽培されています。美しい里山の風景を楽しみながらみかん狩りが楽しめ、近年は温暖化の影響もあり、「甘酸っぱくてとても美味しい」と、観光客から喜ばれています。

解決

ドローン散布により作業の省力化ができ、他の作業に時間を充てられるようになった。また、燃料費の節減にもなった。

寄居町役場や寄居町観光協会、J Aふかやなどの協力により、ポスターやチラシの作成、SNSでの発信をしていただき、みかん狩りシーズンの10月下旬から12月中旬頃には、外国の方も多く来園しています。



生産者の高齢化、猛暑・傾斜地での作業負担軽減を目指し、ドローン防除を提案

現在、風布地区では12農園、小林地区では8農園のみかん栽培をしています。生産者の高齢化、猛暑での農薬散布など傾斜地での栽培管理が厳しい状況の中、J Aふかや営農経済渉外の渡邊敦係長がドローンによる農薬散布を提案。果樹園でのドローン作業は近隣の防除事例も無く、J A管内では初めての試みでしたが、暑い時期だけでもドローンによる散布が可能になれば防除作業の大幅な負担軽減が出来ると思い、全農さいたま・散布業者と連携をとり、デモンストレーションを経て、6農園が正式にドローンを導入することとなりました。



課題の解決へ

夏場の猛暑の中、生産者が手作業で行っていた農薬散布をドローンに変えることで大幅な省力化を実現。病害虫による被害も抑えられ、身体的な負担も軽減されました。また、これまで散布



にかかっていた時間を除草作業や摘果、整枝などの管理作業に専念することが可能となり、より綺麗なみかんを作ることが出来ました。さらに、燃料費の節減にも繋がりました。

近年の異常気象によって新たに発生する病害虫への対策、そして作業のさらなる効率化に向けて、J Aふかやは今後も生産者支援に積極的に取り組んでいきます。

風布みかん組合
組合長
坂本 勝己 さま

小林みかん組合
組合長
田島 博 さま



Field Notes

今回、生産者の高齢化による作業の省力化の課題について、ドローンによる農薬の空中散布を提案しました。果樹園では実施例が少ない状況でしたが、情報を集めて

効果的な予防防除に取り組むことができ、生産者や観光客の皆様喜んでいただく結果に繋がりました。
今後も新たな提案が出来るよう、生産者に寄り添ってまいります。



営農経済渉外係長
渡邊 敦

